かけはし

2020.11.17

石見智翠館高等学校
人権・同和教育部

IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL　IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL IWAMI

●命の大切さについての講演

本校の３年生を対象に、「命の大切さ」について、講演会が開催されました。今回ご講演を頂いたのは、広島県安佐南区にお住いの三浦由美子さんです。三浦さんは、最愛の息子さんを交通事故で亡くしました。まだ１６歳、高校２年生でした。息子の三浦伊織さんは、学校から自転車で帰宅する途中、飲酒運転の自動車に撥ねられて亡くなりました。高校では、自転車競技部に所属し、大会への夢と希望に胸を膨らませていた矢先の事故でした。本校の 3 年生の生徒たちも、自分と同じ年頃で亡くなった伊織さんの痛みや生前の想いを重く受け止めて、改めて自分の命も他人の命も、全ての命の重みと大切さを実感した様でした。普段何気なくテレビのニュースで見ている「どこかの誰か」の出来事が、決して自分と無関係ではないこと、そして残されたご遺族、特に我が子を失った親御さんの気持ちに触れ、自分たちが多くの人々に支えられながら生きていることを改めて考え、近い将来には自動車の運転免許を取得してドライバーの仲間入りをしていく上で、何よりも安全運転に心掛けなければいけないこと。自己は一瞬ですが、残された家族や周囲の身近な人々にとっては、拭い難い大きな心の傷となってしまうこと・・・など多くのことを学ばせていただきました。講演を聞いている間も、また終わって感想を聞かれている時も、生徒たちは真剣な表情でしっかりと学んでいるようでした。最後に、事故に遭った伊織さんが最後に乗っていた自転車を一人一人間近で見て会場を後にしましたが、車輪も車体も大きくゆがんでねじ曲がり、あるいはへし折れているのを見ながら、自己の衝撃の大きさと伊織さんの痛みを肌身に感じ取っていました。卒業まであと少し、大人まであと一歩という時期に来ている３年生にとって貴重な体験となったと思います。

(21) 地域 島　2020年（令和2年）11月18日（水曜日）

絶たれた命 事故根絶訴え

江津 被害者遺族 高校生に講演

三浦さん（手前）の講演を聴く生徒

2011年5月に飲酒運転の車にはねられ亡くなった広島市安佐南区の高校2年三浦伊織さん＝当時(16)＝の母由美子さん(50)が17日、江津市の石見智翠館高で講演した。自らの体験を通し、命の尊さを訴えた。

伊織さんは帰宅途中、飲酒運転のトラック運転手の車にはねられた。由美子さんは伊織さんが使っていた自転車を示し、高校で自転車競技部の活動に励んだ姿を紹介。事故がなければあと60年、70年と生きたとし、「結婚して子どもが生まれ、孫が生まれ、命が延々とつながっていくはずだった。命のつながりが一瞬で断たれた」と話した。

事故がもたらした家族の悲しみも強調。「一つの行動がどんな結果をもたらすか考える機会を多く持つことが大事」と訴えた。

県警などが毎年高校などで開く「命の大切さを学ぶ教室」の授業。3年生約200人が聴いた。水津茜里さん(18)は「同じ高校生の命が奪われたことに胸が痛んだ。相手のことを考えた行動、運転を心掛けたい」と話した。（下高充生）

型コロナウイルスの影響で中止していた。家族連れが走るファミリーの部や飲食の出店を復活させ、幅広い滑走路などを走る。ファミリーは空港の駐機場を発着して滑走路を走る約2キロのコース。市内の飲食店など検討したが、スタートを3時間遅らせれば可能と判断した。

実行委会長の山本浩章市

た中国の新型について発（同者を中のPCR同社は、原接関わ根原発計約3市に上旬に へ観光12日に に市内 し、抗 12日ま 自宅で 人は検 た。市 可能性 市健 全国的 ている 意して しい」